

出かけて
みました

途中下車の島を物語る

中川啓造（会員）

いので、ここを活用します。

ポチャーン、ポチャーン、こげ茶色の物体が海中目掛けて落下すると、名も知らぬ魚が集まり、それを食べる。それは先程まで我が体内で消化されなかった物体、うんこです。

ここは、インドネシア中部



用水路とトイレ



トイレ

ジャワ島のジャバラ市沖合80kmに浮かぶカリムンジャワ島にある野外トイレで、そこは海岸に設けられた仮設の掘っ建て小屋で、この島では一家族5〜6人がざらなので、朝時の排便時は家のトイレだけでは間に合わない

僕は縁あって友だちにここへ連れて来てもらい、2回目からは一人でやって来て、都合5回目の島訪問。毎年やって来ており、常連の宿として漁師の家を利用しています。ここでは英語が通じず、必要な現地語、インドネシア語は全く分かりません。コミュニケーションはどうやって取るかといえば、第六感の鋭い方である僕は何となく通じています。

今から50年以上前、森村桂さんの『天国に一番近い島』という本が一世を風びしましたが、僕にとってはその様なところではありません。

文明国から来た自分にとっては見ると、聞くモノ、総てがビックリの異次元の世界です。



ジャワ海を望む

島へたどり着く方法としては、ジャバラ港から出る高速船、またはフェリーしかなく、それも週3ないしは4便しか出なく、運航していない日もあります。波が高いと船が欠航となり、時間に余裕のあるヒマ人しか行けないような所。幸か不幸か僕が島を訪れた際には日本人に1人も出会っておりません。もっとも港の近くのツアー案内板には日本語でも表記されているので、日本人も来るのかもし

れません。

さて、「三種の神器」という言葉を覚えておられますか？白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫です。昭和34年の皇太子さまの御結婚を機に起こった電化ブームのことですが、この島の三種の神器といえば、オートバイ、テレビ、炊飯器でしょう。



炊飯器と食器

平均月収が1万円にも満たないこの島では、価格が5〜6万円もするオートバイが各家庭に1台必ずあり、小学生でもその

バイクに乗って島の道路を縦横無尽に走っています。テレビは各家庭に衛星放送用のパラボラアンテナが建っており、夜には各家庭の一家団らんの間場になっています。炊飯器は日本で最初に出た頃のモノで炊く機能のみ、米は島では取れないので島外から買っています。

まず驚いたことは、プライバシーが余りない社会ということ。朝起きてみると、そばに隣の家の子どもが寝ておりました。彼は昨晚、僕が泊っている家の子ともと遊んでいるうちにどうやら寝てしまったようです。また、近くの大人が来て残っていた御飯を食べたことです。それも一度ならず何回もありました。

あと女性の大きな仕事として洗濯があります。電気が通じているのが夜間のみなので、洗濯機が無く、家族が多人数で暑いゆえ、汗をたくさんかきますので、1日の内2時間以上はその作業に携わっています。

この島では各地区にイスラム教のモスクが必ずあり、それを中心にしたコミュニティが形成されているようです。ですから何かあったらお互いに助け合い、例えば健康保険、生命保険など無く、困っている人をお互いにカバーし合っています。

食事の質をみると、主食は白米でオカズは魚のみ、たまにインスタントラーメンがオカズになり、野菜は殆ど取らず、フルーツもたまにしか。恐らく平



焼魚

均寿命は60歳そこそこではないでしょうか。見ているとストレスも少ないようです。

翻って今の日本を見るに、確かに物質的には豊かになりましたが、心はいつも不平不満を抱えて社会がギスギスしています。

僕はここへ来ると「幸せとは何なのか」ということを改めて考えさせられます。

台掌



おひつとオカズ